

1 主題

自ら学び続けるこどもの育成 ～未来を切り拓く天栄のこども～
(全教科・全領域)

2 主題設定の理由

本年度より、中学校区として共通した研究主題として「自ら学び続けるこどもの育成」を念頭に研修を進めていきたいと考えている。

まず、本校として「自ら学び続けるこども」を次のように考えたい。

自ら学びの目標を決め、その目標に向けて学習方法や学び手(誰と)、学習材(資料)などを自ら選択して、学習を進めていくこと、そして、次の学びを生み出すような、自らの学びの振り返りをもち、学びを深めていくことができるこどもである。

また、本校では、めざすこども像を「自ら学び続ける子・自ら考え、表現する子・人を大切にする子・持つ力を出せる子・未来を思いえがく子」とし、学校教育活動全体で取り組んでいる。

その具現化に向け、これまで国語科における「書く」活動に焦点をあて、「自他を認め合い、互いの思いや願いを大切にできる子に」という主題で研修を進めてきた。そんな中、書くことに抵抗は少なくなってきたり、自分の思いを表現したり、互いに認め合ったりする姿が見られるようになってきた。また、少しずつ互いの思いを聞くことができるようになってきた様子が見られるものの、以下のような課題がある。

- ・自分の気持ちや考えを言葉で表現したり伝えたりすることが苦手である。
- ・語彙が少なく、順序立てて説明することが難しい。
- ・相手のことを考えずに自分の思いばかりを話してしまう。
- ・自己肯定感が低く、自分の意見や考えに自信が持てない。
- ・相手の思いや考えを受け止めたり、互いに認め合ったりすることが苦手。

こういった課題を今後も追及していくために、私たち教師がどの子も安心して学べる仲間づくりや授業づくりについての研修をさらに深めていくことが重要である。

それは、仲間づくりが、多様性を尊重し、支え合う心を育む人権教育の土台だからである。誰もが安心して学べる居場所を作り、共に成長する喜びを知ることで、豊かな人間関係を築き、社会をより良くする力が育つ。そういった意味での、仲間づくりを進め追求していくことが、こども自身の学びの方法や共に学ぶ相手(他者)、学習材などの選択、自分自身の課題見つけやその発信などにつながる。すなわち、既述した「自ら学び続けるこども」の育成につながるのではないかと考える。

これらのことを踏まえて、2025年度は、すべての教育活動の基盤である仲間づくりを学校全体で進めながら「自ら学び続けるこどもの育成」を目指して研究主題を設定し、研修を進めていくこととした。

3 研究内容及び方法

「自ら学び続けるこどもの育成」のために

(1) 互いの思いや考えを伝え合い・受け止め合う活動を通して、こどもの豊かなつながりをめざす。

これまで研究してきた「書く」ことに加え、その他様々な活動を通して、自分の思いや考えを表し、こどもが意見交流をしたり対話をしたりして考え合う活動を取り入れていきたい。その中で言葉や表現を補い合ったり、新しい考えや視点に気づいたりする機会、また、考えに共感し合ったり、思いを共有したりする機会を大切にしたい。そうした体験の積み重ねによって、自他の思いや考えの違いに気づき、自分とは違う考えを受け止められるようになる。互いの思いや考えを伝え受け止め合うこどもの営みは、伝えていこうとする意欲と、受け止め合う喜びにつながっていくと考える。

また、互いの思いや考えを伝え合い・受け止め合うためには、互いのちがいを認め合い、つながろうとする仲間づくりが重要な基盤となってくる。教師が日々のこども同士のトラブル(=自分たちで問題を解決していくチャンス)にいていねいに対応したり、こども理解を深めたりすることで、教師自身の人権感覚を磨き授業力を高めることになり、こどもたち全員が安心して学べることにつながっていくと考えている。

○具体的方策

① 互いの思いや考えを伝え合い・受け止め合う活動の充実を図る。

- ・伝え合い・受け止め合う活動の目的をはっきりさせて取り組む。
- ・あらゆる学びの中で、伝える相手や場面の設定を意識させる。
- ・伝え合い・受け止め合う活動のルールを各場面で設定し、徹底する。

② 伝え合い・受け止め合うための手立ての充実を図る。

- ・ペア・小グループ・全体での交流
- ・ポスターセッションなどでの交流
- ・ホワイトボードや付箋などを活用した交流
- ・こどもの作文を教材にした交流
- ・クロムブックなど ICT 機器を活用した交流

③ こどもの実態をとらえ、教職員間で意見交換をしながら学級づくり、仲間づくりを進める。

- ・職員研修
- ・仲間づくりのレポート

(2) 表現する力を高める取り組みを日常的に共通して行う。

本校のこども達の中には、授業を含め様々な場面で、思いを伝えることに消極的な姿が見られ

る。また、相手意識が低い状態で言葉を選ばずに話してしまうこともある。表現する力を高める取り組みを進めることは、自分の考えや気持ちを豊かに伝え、他者と深く関わるために不可欠であり、自信を持って発信できることで、主体性が育まれ、多様な学びを深める土台となる。このような取り組みを日常的に意識して取り入れることが、「自ら学び続けるこどもの育成」につながると考える。

○具体的方策

① 教師の共通理解を図る。

- ・「めあて(自分自身の見とおし)」と「ふり返り(自分自身を認める)」を明示する。
- ・教育活動全体で言語活動(話す・聞く、読む、書く、伝え合う)を重視して取り組む。
- ・教師の正しい言葉遣いなどこどもの言語活動がよりの確に行われるように、学校生活全体の言語環境を十分に整える。
- ・語彙の習得を進め、表現力を高める。
- ・ワークシートやホワイトボード、付箋、ICT 機器を活用する。
- ・ペア・グループ活動を充実させる。

② こどもアンケートを実施し、実態を把握する。

4月と12月にこどもに対しアンケートを実施する。(1年生は7月と12月)アンケートの中から「国語の勉強は好きですか。」「自分の気持ちがきちんと伝わるように友だちに話していますか。」等の項目について分析し、取組の前後の変容を分析していく。

③ 読書活動・学校図書館活用の推進を図る。

- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせ
- ・図書巡回指導員の活用(ブックトーク・調べ学習の支援など)
- ・教師や縦割り班活動によるこどもの読み聞かせの推進
- ・授業での並行読書の充実

学びを広げる ICT 機器活用の基礎を学ぶために

(1) ICT 機器活用の推進を図る

こども達が、個別最適な学びや協働的な学びを得るためには、その学びのきっかけを作り出す教職員が、最低限 ICT 機器を使い、こども達へ学びの選択肢を与える準備する必要がある。しかしながら、その土台となる、職員の ICT 機器のスキルや活用機会に差があるのが現状である。それらの課題を解消するために、学校全体としてどの教職員も ICT 機器を使う機会を設け、増やしていくことが最重要課題であると考えている。

○具体的方策

① ICT 機器活用方法を知る。

- ・日常的に、ICT 機器を通した授業についての意見交換を行う。
- ・活用方法を記した HP や教育委員会が作成している資料、有用な動画などを紹介する。
- ・校内でミニ研修などを行う。
- ・校外の研修等に参加する。

② 知ったことを、実践してみる。

- ・①を通して知った、見聞きしたことを、「真似て」みる。
- ・知ったことを、学習場面に「反映できないかを考えて」、実際にやってみる。
- ・郡山小学校の実践の先行授業等を行ってみる。

(2)ICT 機器の活用から学びを深める

(1)で得た活用機会を通して、より有用な活用へつなげるためには、振り返りを通して、再考することが重要である。それらを積み重ねることにより、効果的な機器活用が進み、ひいては、子ども達の深い学びへとつながると考えられる。

○具体的方策

① 実践したことから学ぶ。

- ・ICT 機器活用の様子を見合い、意見交換を行う。

月 1 回以上の授業見学(フリー参観)を行い、気づきをシートにアウトプットし、全職員で共有できるようにする。

- ・ICT 機器活用後に、簡単に報告するなどし、報告を受けたものは意見を伝えるなど、双方向で学びを深める。

② 効果的な活用を考え実践する

- ・経験や学びを生かして、板書計画などをもとにしたICTの効果的な活用を考え実践する。そしてふりかえり、より効果的な学びのための ICT 機器活用の探究及び意見交流を行う。

めざす子ども像より

- ・自ら学び続ける子
- ・自ら考え、表現する子
- ・人を大切にする子
- ・持つ力を出せる子
- ・未来を思いえがく子

具体的方策

(1) 互いのちがいを認め合う仲間づくり

本校では、「仲間づくり」を「授業づくり」の土台としてとらえ、これまで重要な取組として続けて

きた。今後も同様に取組を続けていくこととする。

仲間づくりとは、すべての教育活動の基盤となるものであり、どの子ども安心して学べる集団を教師が意図してつくっていくことと捉えている。「仲間」とは、自分の思いやしんどいことをお互いに言い合える、受け止め合える関係である。また、単なる「なかよし集団」で終わらせるのではなく、子どもたちが差別はいやだという気持ちでつながっていて、差別やいじめ（につながりそうな出来事）に気づき、自分たちで解決しようとする（解決できる）集団と考えている。互いの思いや考えを伝え合い、受け止め合う経験を積み重ねながら、互いのちがいを認め合い、つながろうとする仲間づくりをしていきたい。そのために、次のようなことを大切にしていって進めていく。

- ・子ども同士のトラブル（＝自分たちで問題を解決していくチャンス）にいていねいに対応する。
- ・見続ける子を中心としたレポート研修会

学級の人権課題を明らかにし、見続ける子を中心として仲間づくり・授業づくりを進めていく。「見続ける子」のまわりの子どもたちを変えていこうとする意識で授業や活動に取り組む。「教育的に不利な環境」のもとにあるこどものしんどさに寄り添い、そのような厳しい環境にあるこどもがクラスの中に居場所をもてる仲間づくり、いじめや差別をなくしていこうとする仲間づくりをめざす。

- ・一人ひとりが安心して学べる学級づくり、授業づくり
- ・既存の学年別人権カリキュラムの充実

（２）教職員の人権意識の向上

子どもたちは教職員の姿をよく見て、そこから学んでいることも多い。私たち教職員がどのように対応しているかで、子ども同士の関わり方も大きく変わってくる。子どもたちの人権意識を向上させるためには、まず自分たちの人権意識を問いなおすことが必要であると考えている。子どもたち一人ひとりを大切にできているか、こども一人ひとりの特性を理解しているか、特性を理解した関わり方ができているか、好ましくない関わり方が子どもたちに広がっていないかなどお互いによりよくなるためのアドバイスが言い合える教職員集団となるよう取り組んでいく。

・人権研修会での職員研修

「仲間づくりについて」

「こども達との関わり方について」

「外国につながるこどものおかれている現状について」

「部落問題学習について」 など

・授業公開研修

・互いに学び合える教師集団

(3) 各学年別のテーマで人権学習を進める。

「生活・人権総合学習」と年間を通した「仲間づくり」の2つの柱で明記した学年別の人権教育カリキュラムを毎年度学級の実態をとらえ再編成していく。

「生活・人権総合学習」では、各学期の重点取組を記載し、個別的な人権問題を解決するための学習について系統的に取り組んでいく。また、学級の実態に合わせて人権学習指導資料（「みんなのひろば」など）を活用していく。

「仲間づくり」では、生活や思いを書いたものを交流して仲間づくりにつなげたり、お互いの背景を知り合ったりする関係づくりに取り組む。

☆教師の共通理解のために☆

(1) 学習規律、共通理解をもつ。

- ①「めあて（自分自身の見とおし）」と「ふり返り（自分自身を認める）」を明示し、こどもが見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
- ②授業をはじめ教育活動全体で、言語活動を重視して取り組む。
- ③順序よく話すように指導する。
- ④分からないことも話すようにする。
- ⑤友だちが話したことを自分の考えと比べながらしっかりと聞く。
- ⑥話し手に反応したり、共感したりする。
- ⑦言葉をたくさん学び、表現力を磨く。
- ⑧ICT 端末やワークシート、ホワイトボード、付箋を活用する。
- ⑨ペアやグループでの活動については、視点と手順を明確にし、共同して授業を深めていくことができるようにする。
- ⑩学習支援ボランティアを活用する。（学期末の算数復習、2年の定規、3年のコンパス、4年の分度器、他教科〔図工・総合・生活科の支援、家庭科の裁縫、調理実習など〕）

(2) 授業における学習規律・学習環境を整える。

- ① 全校で、「ピン・ピタ・グー」を合言葉にして、正しい姿勢を徹底する。
- ② 鉛筆の正しい持ち方ができるようにする。
- ③ 教室には「聞き名人」「話し名人」「声のものさし」「学習用具の配置」を掲示し、ルールの定着を図る。
- ④ 授業時の机上の整頓ができるようにする。（教科書、ノート、筆箱 ICT 機器の配置）
- ⑤ 黒板の周囲に掲示物を貼らない。
- ⑥ 教室は、ファイル、雑巾等きちんと整頓し、整然としている。
- ⑦ 気持ちよく話せるような仲間づくりをする。

⑧ 見やすいノートの使い方ができるようにする。

（一行ライン、日付、ページ、問題番号、一行二行空け、定規を使って線を引く。《筆算も》、下敷きを敷く、丁寧に書く等）

⑨ 箱形筆箱の定着（無地 全学年）、無地の下敷き。

⑩ 授業はチャイムで始まり、チャイムで終わるように努める。

⑪ はじめと終わりのあいさつは、きちんとした姿勢で、明るく元気に。

日直 「今から、2時間目の算数の勉強を始めましょう。」

全員 「始めましょう。よろしくお願いします。」

日直 「これで、算数の勉強を終わりましょう。」

全員 「終わりましょう。ありがとうございました。」

⑫ 配付物は「どうぞ。」「ありがとう。」

⑬ 返事は「はいっ。」

4 年間計画

4月	・全体研修会（研究主題・研究内容・研究組織・研修計画等） ・こどもアンケート実施、分析 1 回目 ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック(自校採点、入力、分析) ・人権教育全体研修会「こどもをどう捉えるか」
5月	・年間計画作成 ・校内研修会 「これからの授業づくりについて」 ・人権研修会（第一回「見続ける子」を中心としたレポート研修会） ・フリー参観及び気づきのアウトプット
6～7月	・ICT 活用研修 ・フリー参観及び気づきのアウトプット ・算数教室
8月	・校内研修会「1 学期の ICT 活用の実践交流」 ・全体研修会（全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック分析） ・ICT活用研修会
9月	・ICT 活用研修 ・フリー参観及び気づきのアウトプット
10～ 11月	・研究授業 1年 郡山小 先行授業 10月29日（水）（事後研） ・人権教育研究授業 5年 11月 ・フリー参観及び気づきのアウトプット
12月	・こどもアンケート、分析 2 回目 ・全体研修会（これまでの取組の反省・3学期に向けて）
1～3月	・人権研修会（第二回「見続ける子」を中心としたレポート研修会） ・研究授業 4年 郡山小 先行授業 1月26日（月）（事後研） ・全体研修会（2025年度の反省） ・みえスタディ・チェック(自校採点、入力、分析) ・全体研修会（2026年度の方角性について） ・フリー参観及び気づきのアウトプット